

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和4年1月

（1）えだまめの栽培研修会を開催（R4.1.17）

1月17日、知名町がえだまめの栽培研修会を開催し、新規栽培8人を含む農家15人が参加しました。

当地域のえだまめは、2月に種を播き、4月下旬～5月に収穫・出荷する作型で、主力品目であるさとうきびやばれいしょ、花き類の後作での栽培が可能であることから、同町が新規品目として推進を図っており、農家の関心は高まっています。

農業普及課では、役場・農協と連携し、面積拡大や農家の所得向上につながるよう栽培技術の確立及び普及に取り組めます。

（2）テッポウユリ「スカイホルン」1月収穫作型現地検討会開催，露地栽培に期待（R4.1.17）

1月17日、園芸振興協議会沖永良部支部が県育成品種「スカイホルン」の露地栽培1月収穫作型の現地検討会を開催し、生産者、関係機関併せて8人が参加しました。

テッポウユリは施設栽培が一般的ですが、露地栽培が可能な品種・作型があれば、新規就農者や他品目の生産者が新たな施設を設置せずに導入が可能になります。

近年のテッポウユリ栽培面積は減少傾向にありますが、今年で2年目となる実証で、出荷可能な品質を確認でき、栽培面積減少に歯止めがかかることが期待されます。今後、栽培管理等の技術を整理し、栽培マニュアル作成に取り組めます。



（3）テッポウユリ^{さくやひめ}「咲八姫」出荷規格について県と産地が協議（R4.1.19）

1月19日、えらぶの花推進協議会が1月収穫作型の加温栽培実績検討会を開催し、JA県経済連、農業開発総合センター花き研究室、フラワーセンター、えらぶの花推進協議会の9人が参加しました。

「咲八姫」は、栽培適温より低温になると奇形花が発生しやすい特性があり、事業を活用し、暖房機を使用した加温栽培試験に取り組んできました。

しかし、加温栽培を行っても奇形花が多発したため、今回新たな出荷規格について協議しました。主作型である4月出荷に備え、実需者へは検討した規格に基づくサンプルを送付し、新たな出荷規格を評価いただく場を2月に設ける予定です。

